

デーリー東北 2022年(令和4年)6月9日(木曜日) (2)

八戸酒類とSDGsプロジェクト



水田に苗を植える参加者。無農薬米を使った日本酒造りを進める＝5日

無農薬米でおいしい酒を

持続可能な開発目標(SDGs)を取り入れる動きが、酒造業界でも広がっている。八戸地域の教育関係者らで組織する「しまもりSDGs実践プロジェクト」は地元の酒造会社と連携し、環境への負荷が少ない無農薬米を使い、この地の風土に合った日本酒造りを進めている。

(大西桂介)

日本酒造り、環境に配慮

プロジェクトは、八戸工業大の教員や学生、地域資源の発掘に取り組む住民団体「ふるさとルネッサンス」(上野大輔代表)で構成する。

5日は八戸市南郷島守地区の水田で、プロジェクトのメンバーと、八戸酒類(橋本八右衛門社長)の社員計35人が田植えを実施。7㍎の水田に無農薬で育てた「まっしぐら」の苗を植えた。今後も農薬を使わずに育成する。

リーダーを務める同大の星野保教授は、自然農法のため小まめな除草が必要になる一としながらも、「環境への負荷が少なく、里山の生物の多様性も維持される」と、無農薬栽培がSDGsにつながる取り組みであることを強調する。

橋本社長によると、酒造業界でもSDGsを積極的に取り入れる流れがあるといい、「酒造りに欠かせない米作りから関わることでできてありがたい。心を込め、無農薬米のおいしい

酒を造りたい」と意気込む。不安定な足場に四苦八苦しながら、田植えに精を出した同大4年の荒谷伊武樹さん(22)は、「普段いかに機械に頼っているかという